資源環境経済学特別演習 II 議事録（　７月：
２０１１　年 度 第　　３ 回

報告題名　中国におけるコメ流通チャンネル効率化に関する研究 –サプライチェーン・マネジメントの視点から	
報告者　金 銀輝	**日時**　７月１４日　午後３時～
（所属分野）　国際開発学研究室	**場所**　第二講義室
座長　滝田雄基	**議事録担当者**　北村

出席者

長谷部、木谷、安江、小山田、米倉、冬木、高篠、伊藤、石井、韓、八木、水木、宮里、池田、易思、威廉、王、北村、金、滝田、タンボウニ、中村、山口、林、泉井、Intan、Sudirman、Lise、金、黄、今井、渋谷、ナスンムンク、徐、趙、Manalo、劉、王偉、池畑、伊坂、伊藤、薄井、金沢、庄司、西田、門馬

報告要旨

１９７８年に「改革開放」政策が開始されてから現在に至る約３０年の間に、中国の食糧システムは大幅に変化した。特に２００４年から中国で食糧の全面開放が実施された抜本的な改革に注目している。

本研究における食糧は、中国語の「糧食」の和訳である。中国における「糧食」の概念は、穀物のほかに豆類およびイモ類(サツマイモとジャガイモのみ；イモ類は実際の重量５キロを１キロに換算：を指す。本研究の対象とする食糧は主に米に限定する。

本研究の目的は、食糧流通においてサプライチェーン・マネジメントの視点から、中国最大の食糧産地の一つである吉林省を事例にして、食糧のサプライチェーン、いわゆる生産から加工、流通、販売までの食糧流通の全体像を明らかにする。

質疑・応答

滝田：事例調査を中国の吉林省の民間企業で行おうとする理由は？

金：吉林省の商品食糧の販売が全国一位であることと、吉林省の一人当たりの食糧の占める割合が全国一位であることによります。民間企業に対しては、中国の東北三省の米の品質が高く、中国の南部地方で売り上げをすごく上げていることによります。

八木：民間経営は第二段階でもあったのに第三段階で現れた企業を対象とするのですか。

金：実際は２００１年から２００４年の間に、中国東北地方の米は南地域に流れて、２００４年以降に完全に自由化されていきました。ちなみに以前は、東北地方の米は南地域に行けば審査の手続きがあり、東北地方の米は南には簡単には流通できない状態であったが、２００４年以降は完全に自由化されて東北地方の米の耕作面積も大きくなり、生産量が上がっている状態となっています。

八木：２００４年以降と考えてよいのか。

金：２００４年以前も民間企業はあるが、政策もあったので、民間企業は評価はもらってなく、地域内のみの販売でした。たとえば、宮城県の米は宮城県では販売できるが、九州では民営企業は販売する権利がないということです。完全に流通自由化した後に中国の民間企業を研究したいと考えたからです。

安江：まず基本的なところでタイトルが間違っており、チャンネルではなくチャネルです。ケアレスミスに気をつけてほしい。やりたいことの目的はわかるが、効率化を明らかにするという目的が大雑把すぎるので、どういったデータをとるかなどの具体的なところもしっかりとサポートしてほしい。
それで質問は、冬木先生のモデルの拡張にはなっていない気がする。このモデルの新しいところを教えてほしい。再整理しているだけではないのですか。

金：生産者から販売までのサプライチェーンが一番短いです。最後の課題４には、一般消費者まではこのチェーンが一番長いと考えてつくりました。

安江：質問の仕方を変えますが、たとえば、２００４年度以降のサプライチェーンの実態を調べると、今何が問題で、どういうところが解決されるのですか。やっぱりそういうところがないと、アウトプット、どういった成果が出てくるのかわからないし、この研究がどこに貢献するのかがわからないです。もうちょっとその辺を意識して書いたほうが良いと思います。

伊藤：市場化によって、効率性がどう高まっているのか、チャネルが加わることによって改善されたのかというのは具体的にはどのように判断するのですか。

金：私の考えは、こういった施設はもし雇用が多ければ、例えば、米の生産力が上がり、生産コストが下がり、例えば東北から南へ行ったら南で最後の販売価格の競争力が上がると考えています。

長谷部：簡単な質問なんですが、施設とか設備を入れて、流通チャネルとかサプライチェーンにすることのメリットというか、それをやるとこれまでにない新しい物が見えてくるというその理由は？

金：販売チャネル、サプライチェーンの長さに新しいことを考えています。たとえば、自分で生産から加工して流通を一つにまとめてやれば経済利益は一番大きいと思っています。

長谷部：最初は初期投資はあるが、それをすれば、全体を把握できるし、そういううまくいった事例を探しているのですか。どうすれば上手くいくかをチェックしたいのですよね。それを見極めた上で自分はもっと儲かる方法を探すぞということですね。

米倉：ローカルなところから全国区まで流通が可能になった時に、どういった業態の経営体がどういったところをカバレッジしているかを明らかにしたいということですか。
金：僕は民間企業と考えています。
米倉：業態によってカバーする守備範囲が決まってくるだろうというのを自分が調べてやるぞということでいいんですか。
金：そうです。現在の食糧事情は国営の８割は赤字です。民間企業は黒字です。同じ地域でも民間と国営だと違います。

長谷部：自分のやりたいことを先に出してそれにのっとって整理した方がいいんじゃないですか。まだ、無理くりだよね。たとえば表が図になってたりして、途中の第一とか第二とかいう図にまだ整理されていないんだよね。「研究の枠組について」っていう感じですよね。素直にそう書いていればよかったのではないですか。